

# 公園整備で得られる市民の「QOL」

— 龍城ヶ丘プール跡地を活用した地域づくりに関する提言 —

一般社団法人 神奈川政経文化研究会

## 1.はじめに

(一社)神奈川県政経文化研究会(以下 当会)は、神奈川県内の地元経済人や県民有志らで構成される任意団体である。「より良い未来の神奈川」を見据えて「政治」「経済」「文化」の3分野について学び合うべく、令和元年7月から市内で定期的に勉強会を開いてきた(新型コロナウイルス感染拡大のため当面は休止)。

今回の提言は、平塚市における龍城ヶ丘プール跡地を含む相模湾沿いの東西3万平方メートルの公園整備計画に関連して、社会資本の整備によるストック効果の可能性に着目し、市民が恩恵として得られる生活の質向上(Quality of Life※以下 QOL)について当会が考察するものである。

平塚市は、海をはじめとした地域資源やそれらが持つ魅力を磨き上げ、また新たな魅力の創出によって「選ばれるまち・住み続けられるまち」を実現する取り組みを進めている最中にある。地道なシティープロモーションに加え、ダイナミックな社会資本の整備は地域の魅力創出の両輪といえる。

老朽化により平成25年に廃止された龍城ヶ丘プールの再整備は、平塚の貴重な地域資源の一つである海を活用した「新たな魅力の創出」には不可欠で、現状のように利用ができない状態が続いていることは、市や市民にとって不利益な状態が続いていると言ひ換えられるのではないか。

我が国は、戦後復興から世界に類を見ない高度経済成長を遂げ、道路や港湾、空港など「陸海空」の産業基盤を整備してきた。終戦から70年以上が経過するなか、そうした整備は切れ目なく継続していく必要がある。

かけがえのない郷土である平塚の未来を考える当会として、建設が予定されている湘南海岸公園龍城ヶ丘ゾーンの公園がもたらすQOLについて提言する。

## 2.インフラ整備による効用

先に申し上げた「ストック効果」とは、整備された社会資本が機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果を指す(※平成28年国土交通省「都市公園のストック効果向上に向けた手引き」より)。龍城ヶ丘ゾーンに整備予定の公園で言えば、防災機能向上や景観向上、健康・レクリエーション空間の創出など、さまざまなストック効果が期待できる。

市は公園整備により首都圏や北関東からの集客を期待し、平塚の新たな観光スポットとしてオープンさせたい考えで、共用後は年間70万人の来場を見込んでいる。

しかし、当会では経済面というよりは、公園が市民にもたらすQOLに着目している。そもそも公園とは、地元住民の憩いの場であり交流の場として機能する空間である。子どもたちが遊び、親たちが情報交換をする。そこには木々や花があり、飼い犬や飼い猫の姿もある。子どものころの思い出を紐解けば、誰にも公園の記憶があるのではないか。公園は癒しの場、成長の場でもある。

以下では公園が持つストック効果を5つの観点から見ていく。

#### ◇健康・レクリエーション効果

海岸線に面した公園は、開放感と素晴らしい景観が備わっている。自然とのふれあいや、コロナ禍でも比較的安心な屋外でのレクリエーション、リフレッシュ活動の場として使用されることで、幅広い世代の健康増進に寄与する。

とりわけ平塚市においては、湘南ベルマーレをはじめスポーツチームや協会、サークルなどとの協働により、市民がスポーツに親しむ機会の創出にも大きな可能性がある。また、初心者むけのヨガ教室や体操教室など高齢者でも気軽に取り組める企画を提供することで、健康寿命の延伸につながるライフスタイルを手にもすることもできる。

さらに、レクリエーションやリフレッシュ活動を通して世代間交流も図ることができよう。少子高齢社会の折、核家族化が進むと世代間交流は希薄化の一途をたどる。こうした社会課題に対し、公園とそこで行われる活動が整備されれば、小さな子どもがシニア層と触れ合うこともできるし、触れ合いそのものが互いにとっての癒しにもなるだろう。

#### ◇景観向上の効果

全国ネットで中継される箱根駅伝のコースにも重なる国道 134 号は、平塚市内でも知名度の高いルートの一つであり、海岸に面した贅沢なロケーションともいえる。一方、現状は荒廃した龍城ヶ丘プール跡地が道沿いに横たわっており、不法侵入して書かれたと思われる落書きも跡地内には多い。いわゆる「割れ窓理論」の観点からも早急な景観整備が必要である。

公園が予定通り整備されれば、そこが湘南平のテレビ塔のような新たな「平塚のシンボル」となるはずだ。そうなれば、公園が地域固有の文化・景観の保全・形成に寄与する。

#### ◇子育て・保育・教育の効果

前述の通り公園は、自然に囲まれた環境の中で身体を動かしながら遊ぶことによって子どもの発育を力強く後押しする。公園での遊びは自宅での遊びとは性質が異なり、遊びを考え実行することで子どもの想像力と創造力を育むとともに、自然環境に対する好奇心を刺激したり平塚の地域資源である海に愛着を持ってもらうことにもつながる。

幼少期から環境というものに関心をもってもらうことで、年を重ねるとともに社会課題である環境問題について関心を持ちやすくなるだろう。2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」は国内外で実践されており、神奈川県でも推進中。こうした意味合いにおいても、次代を担う子どもたちへの教育において公園は不可欠ではないだろうか。

#### ◇地域コミュニティ形成の効果

「本当に住みやすい街大賞 2020 シニア編」で第3位に選ばれた平塚市。

※右記 URL 参照 <https://magazine.aruhi-corp.co.jp/0000-2978/>

平塚市のシティプロモーション活動の成果として今後、市外から新たに転入してくる人の増加も考えられる。公園はさまざまなイベントを通して古くからの住民と転入してきた新たな住民が交流し連携する機会の提供の場となる。「お隣さんに醤油を借りる」ような近所の交流がなくなりつつある今、公園を舞台にした上記のような交流は住みよい地域づくりに欠かせないだろうし、犯罪抑止の観点からも不可欠といえるだろう。

考えられる具体的なイベントとしては、公園清掃活動や緑化活動、住民参加型ワークショップ、祭りなどがある。

#### ◇観光振興の効果

海に面した公園は、そのロケーションの良さから映画やテレビドラマの撮影誘致などの可能性を有する。また、相模湾を一望する公園は格好の「映え」スポットとしてInstagramをはじめとするSNSによる拡散も起こりえるだろう。こうしたことが現実となれば公園は平塚の新たな観光資源として多くの観光客を引き付け、平塚の観光振興のみならず平塚への転入を強く促す要因となりうる。飲食や宿泊など観光消費を拡大し、市内全体への波及効果も期待できるだろう。

例えば、平塚市は平坦な土地柄で地形的にも住みやすい地域である。ただ、これは実際に平塚を訪れ、地域を歩いてみないと実感できない。インターネットなどで調べることはできても、その良さまでは分からない。つまり、公園が観光客を誘引できるというメリットは、平塚をよく知らない人たちに身をもって平塚を知ってもらえることにある。人口減少社会において、平塚の魅力を肌で感じてもらうことは非常に重要である。

### 3.公園の役割と機能を最大化させるには

時代やニーズが変わっていけば、既存の社会資本も変わっていく必要がある。新たに公園を整備することは時代のニーズや変化に合わせて行われる合理的な行為といえないだろうか。

公園は整備された時点がゴールではなく、むしろスタートである。前述のように時代やニーズは変化していく。公園の役割と機能を最大化させるためには、市や公園に関わる業者だけでなく、幅広い世代の住民の関与が欠かせない。そしてさまざまな立場の人たちが「三方よし」の関係を築く必要がある。そのためには、市だけでなく、当会のような任意団体、そして市民一人ひとりが公園に愛着をもち、積極的に関わっていくその「姿勢」が大切だと考える。

#### 4.おわりに

技術の進化により衰退していったり、減少していったりする物がある。電話ボックス、切符、新聞、小銭、手紙、絵葉書、カメラ、辞書……。しかし、公園はいつの時代もなくなるはずである。公園では子どもたちが今日も走り回り、シニアの方たちがゲートボールを楽しんでいる。公園に咲く一凛の花を見ながらデッサンしている若者もいるかも知れない。

公園は最も身近な公共の場の一つである。さまざまな世代の人たちが利用する場は、子どもたちにとって社会性を学ぶ場であり、いわば学校の外にある「もう一つの教室」だ。時代がいくら前に進もうと、人間は最初赤ちゃんであり、子どもなのである。そんな彼らの成長にはいつだってもう一つの教室が必要ではないか。

龍城ヶ丘プール跡地の公園整備に関し、市民より様々な意見はあるとは思いますが、是非とも価値ある施設の整備を力強く推進していただくよう平塚市行政に期待いたします。

2020年12月

一般社団法人 神奈川政経文化研究会  
代表理事 今村佳広